

栄養管理部会の役割とミールラウンドにおける取組み

小暮 勝¹⁾ 相場 健一¹⁾ 美原 恵里²⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所 介護老人保健施設アルボース 看護介護部

2) 公益財団法人脳血管研究所 介護老人保健施設アルボース 施設長

[はじめに]当施設では、平成 18 年度から栄養管理部会が栄養および口腔ケア等に関わる取組みについて検討している。平成 27 年度介護報酬改定では経口維持加算の見直しが行われた。この改定により経口維持加算の算定要件が、これまでの造影撮影や内視鏡検査、水飲みテスト等のスクリーニング手法別による評価区分から多職種による食事の観察(ミールラウンド)や会議等のプロセスを充実させることで評価されるように変更された。今回、栄養管理部会の活動内容とミールラウンドに対する取組みから、利用者の入所中 BMI 変化と経口維持加算算定件数において成果が出たので報告する。

[施設紹介]平成 30 年度介護報酬改定から当施設は超強化型老健に算定されており、入所定員は 100 名(一般棟 54 名、認知症専門棟 36 名、ユニット 10 名)である。当施設は脳卒中を主とした神経疾患の専門病院に併設した施設であり、協力歯科医療機関の歯科医師(協力歯科医師)の往診や併設病院に所属する歯科衛生士との連携体制が整えられている。

[栄養管理部会とは]当施設には業務改善・ケアの質の向上を組織横断的に実践するために、教育部会・事故防止部会などの 11 の部会が設置されている。栄養管理部会は利用者の日々の喫食量や水分摂取量の管理、口腔衛生の管理など利用者の栄養管理を組織的に行うことを目的に、平成 18 年度より活動を開始し、現在のメンバーは、管理栄養士・言語聴覚士・介護福祉士・看護師・支援相談員など 9 名から構成されている。

[栄養管理部会の主な活動]1. SGA を用いた栄養スクリーニングの実施と分析(平成 18 年度開始)当施設では栄養スクリーニングを目的に SGA を用いた栄養アセスメントを実施している。月 1 回、定期的に体重測定を行い、前月比±2 kg 以上の利用者は管理栄養士に報告し、介入依頼する。さらに平成 29 年度からは-3kg 以上の体重減少を防ぐ対策に取り組んでいる。2. 口腔衛生管理体制加算に関する取組み(平成 21 年度算定開始)職員の口腔ケアに対する知識と技術の向上を目的として、月 1 回協力歯科医師による勉強会を開催している。

3. 口腔衛生管理加算に関する取組み(平成 29 年度算定開始)平成 18 年度から各療養棟

職員が口腔ケアの介入を必要とする利用者を選出し、口腔ケア実施してきた。平成 29 年度からは歯科衛生士が口腔ケアの介入が必要な利用者を選出し、歯科衛生士の指導を受けた職員が口腔ケアを行うようになった。介入を開始して改善がみられない場合は、部会員から利用者および家族に歯科往診を提案している。4. 経口維持加算に関する取組み(平成 27 年度算定開始)栄養管理部会のメンバーがミールラウンドの中心となり活動するようになった。

[ミールラウンドに関する部会の取組み]栄養管理部会の経口維持加算におけるミールラウンドの取組みについて紹介する。1. ミールラウンドの仕組みを作り、職員に対する説明会を開催した。2. 食事観察記録用紙を作成し、事前に各療養棟職員にミールラウンド対象者の情報収集を依頼する。3. 経口維持計画一覧表を作成し、各療養棟責任者から職員に経口維持計画の周知を依頼する。4. 食事場面への配慮として、離れたところから観察し必要な場合のみ近づくこととする。5. 各療養棟職員に経口維持計画書の家族への説明と同意取得を依頼する。

[結果]1. 現行の経口維持加算導入前の平成 26 年度と導入後の平成 27 年度から平成 29 年度までの間で、入所期間 3 ヶ月以上当施設を利用したのあるリピート利用者 9 名(男性 4 名・女性 5 名、入所時年齢 87.3 ± 9.0 歳、入所時 BMI 20.7 ± 2.9 、在所日数 124.1 ± 22.9 日)に対し、入所中 BMI 変化(退所時 BMI-入所時 BMI)を調査した。なお、年度内に複数回入所した利用者については年度初めの入所データを用いた。平成 26 年度の入所中 BMI は -0.07 と減少していたが、平成 27 年度入所中 BMI は $+0.02$ 、平成 28 年度入所中 BMI は $+0.11$ 、平成 29 年度の入所中 BMI は $+0.24$ と増加した。また、ミールラウンドによって経口維持計画が変更された回数は平成 27 年度 10 回、平成 28 年度 13 回、平成 29 年度は 15 回と増加した。2. 年間経口維持加算算定件数は平成 27 年度 134 件、平成 28 年度 316 件、平成 29 年度 407 件と増加した。

[考察] 1. 栄養管理部会がミールラウンドの中心となり活動したことにより、各療養棟職員と連携を図りながらミールラウンドを展開できるようになった。その結果、各療養棟職員の食事場面での観察力が向上し、その情報が管理栄養士や言語聴覚士、歯科衛生士、その他のリハビリテーション職員へ伝達できるようになった。これにより、対象者の状態変化に合わせた食事内容・食事環境を調整することができ、最後まで美味しく食事ができることに繋がり BMI が増加したと考える。2. 年間経口維持加算算定件数が増加した背景には、事前の情報収集による一人あたりのミールラウンドの時間短

縮がある。当初は、情報収集・分析・計画立案の全てをその場で実施していたため 1 人あたり 10 分程度の時間を要していたが、現在は情報収集を事前に済ませているため、当日は確認が必要な情報のみチェックすればよく、情報の質を保ちながらも観察時間が 1 人あたり 3 分程度短縮することに繋がった。

[まとめ]1. 栄養管理部会の活動内容とそのひとつであるミールラウンドの取組みについて報告した。2. 部会がミールラウンドに関わることで各療養棟職員の食事に対する意識向上に繋がり、利用者の栄養状態は改善した。3. 適切なミールラウンドを行うことにより、経口維持加算の算定件数は増加した。